

2020年度のふりかえりと今後の取り組み

IHI GROUP

明星電気株式会社 

2021年5月

1. 2020年度 決算概況

2. 「2019 中期事業計画」

2年目のふりかえりと今後の取り組み

2020年度 決算概況

受注高、損益計算書

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度	増 減
受注高	8,319	8,767	448
売上高	8,105	7,102	△ 1,003
営業利益	585	301	△ 284
経常利益	585	294	△ 292
税金等調整前当期純利益	545	291	△ 254
税金費用	155	△ 22	△ 177
当期純利益	390	313	△ 77

(注) 2020年6月17日に当社の連結子会社でありました明星マネジメントサービス株式会社が清算を結了しているため、非連結の実績を開示しております。

貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年度末	2020年度末	増 減
売上債権	5,656	4,518	△ 1,138
棚卸資産	1,450	1,321	△ 128
その他流動資産	148	680	532
固定資産	3,423	3,382	△ 41
投資その他の資産	424	495	71
資産合計	11,103	10,399	△ 704
仕入債務	1,337	1,148	△ 188
有利子負債	686	116	△ 570
その他負債	3,222	3,096	△ 126
株主資本	4,191	4,372	181
その他純資産	1,664	1,664	0
負債資本合計	11,103	10,399	△ 704

(注) 2020年6月17日に当社の連結子会社でありました明星マネジментサービス株式会社が清算を結了しているため、非連結の実績を開示しております。

事業セグメント別 売上高、営業利益

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2019年度	2020年度	増減	2019年度	2020年度	増減
気象防災事業	6,050	4,743	△ 1,307	542	179	△ 363
宇宙防衛事業	2,054	2,359	304	96	189	93
調整額	—	—	—	△ 66	△ 66	0
合計	8,105	7,102	△ 1,003	571	301	△ 270

(注) 2020年6月17日に当社の連結子会社でありました明星マネジメントサービス株式会社が清算を結了しているため、2019年度は連結業績を、2020年度は非連結での実績を開示しております。

事業トピックス (気象防災事業)

▶ 鉄道向け地震計

新幹線向け地震計整備で安全・安心に貢献



▶ 新型アメダス

新型アメダスの更新がスタート

大気下層の湿った風を正確に把握するため、湿度（水蒸気）センサーを追加



▶ POTEKAの情報サービス

超高密度気象観測・情報提供サービス「POTEKA®」

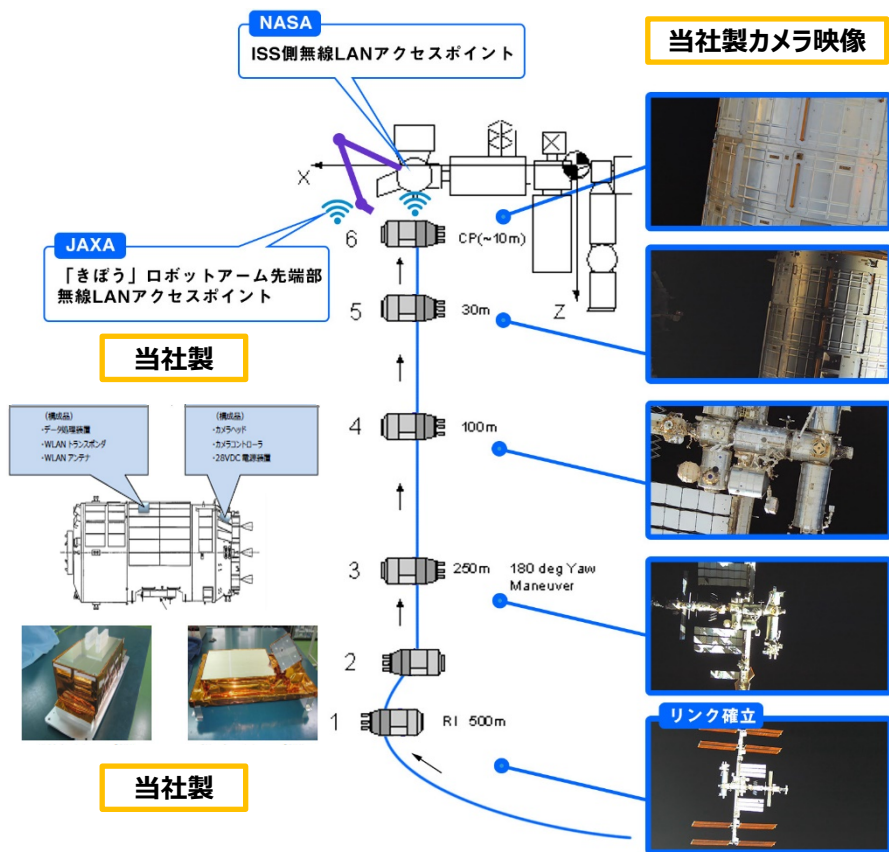
気象変化に応じて、撮影間隔を自動切替する河川撮影の新サービスがスタート



事業トピックス（宇宙防衛事業）

▶世界初ドッキングモニタ映像の 無線LAN伝送軌道上実証ミッション

「こうのとりの」9号機に搭載されたカメラ映像を無線LANを用いてリアルタイムで国際宇宙ステーション（ISS）に画像伝送する実験に見事成功



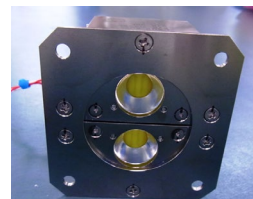
出典：JAXA/NASA

▶H-II A/Bロケットアビオニクス

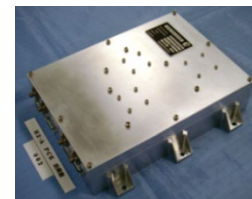
- ・H-II A/Bロケットにブースター分離、フェアリング開頭、衛星分離を撮像する照明装置を含むモニタカメラ搭載
- ・ロケットの動作確認に貢献



耐衝撃搭載カメラ
(CAM)



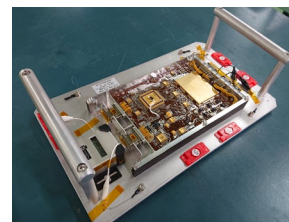
高輝度投光器
(LT)



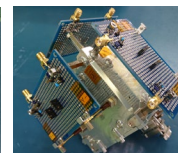
画像圧縮伝送装置
(PCE-SS)

▶木星氷衛星探査計画（JUICE）搭載機器

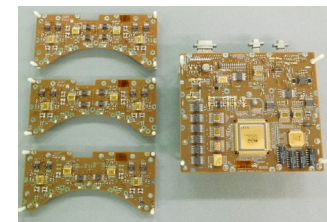
欧州宇宙機関（ESA）が主導する木星氷衛星の探査機に搭載のミッション機器開発が完了



プラズマ環境観測機器
(PEP)



電波・プラズマ波動観測機器
(RPWI)



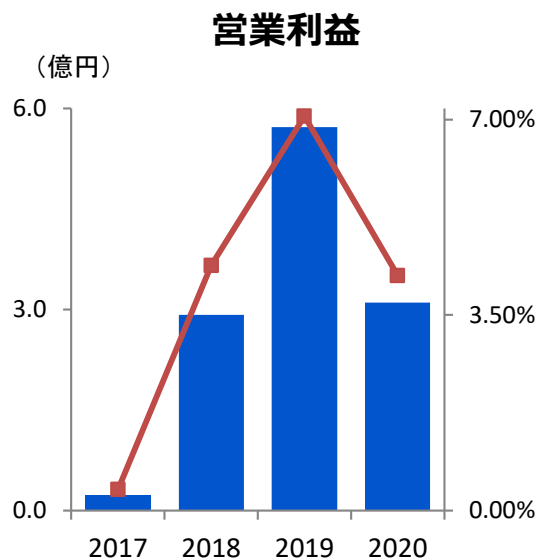
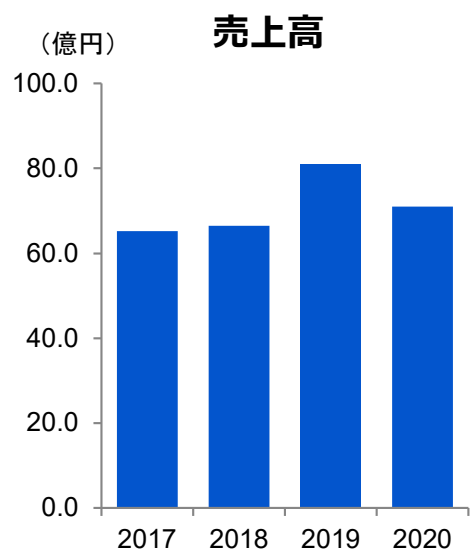
「2019 中期事業計画」 2年目のふりかえりと今後の取り組み

「2019 中期事業計画」2年目のふりかえり

「2019 中期事業計画」	2年目の取り組みと課題
既存のお客さまと ライフサイクル視点で 価値共創	取り組み： <ul style="list-style-type: none">・お客さまの困りごと・ニーズの収集と解決策の提案・航空管制装置及び高層気象観測装置の保守を含めた委託業務として検討 課題： <ul style="list-style-type: none">・ソリューション・ビジネスの拡大加速
経験ノウハウを生かした 事業領域拡大	取り組み： <ul style="list-style-type: none">・地震計及び中小河川向け水位計の拡販・POTEKAの機能向上・衛星搭載機器に注力・海外への拡販働きかけ 課題： <ul style="list-style-type: none">・ゾンデ分野の受注確度向上・海外展開の加速
ものづくりプロセスの 飽くなき強化	取り組み： <ul style="list-style-type: none">・多能工化による応援・被援の促進・プロジェクト管理、リスク管理を徹底 課題： <ul style="list-style-type: none">・品質意識の変革・設計技術力向上・技術者の多能工化

2020年度のふりかえり：サマリー

- 売上成長を期し、宇宙防衛は好調だったが、気象防災は競争激化で苦戦
- 収益改善を期し、原価率は改善傾向だが、補償サービス費が増加
- 成長注力に関しては、POTEKAの機能向上などを実施したが、引き続き開発、販促実施必要



戦略の見直しポイント

- 契約の包括化による間接費の削減と業務負荷の平準化
- 技術力向上・品質意識変革による後戻り撲滅
- ソリューション提案の拡大

基盤強化	安定供給
	利益確保
事業変革	気象防災：課題解決型企业
	宇宙防衛：小型衛星・地上転用
実績	売上高 75.6億円 → 71.0億円
	営業利益率 4.2% → 4.2%
	ROE 5.2% → 5.3%

2020年度のふりかえり：事業セグメント別の取り組み結果

■ 気象防災事業

大型更新案件を確実に受注

→アメダス整備や震度ネットの更新スタートを確実に受注

IHIグループ連携による「流域治水」事業に参画

海外展開はコロナ禍で活動停滞

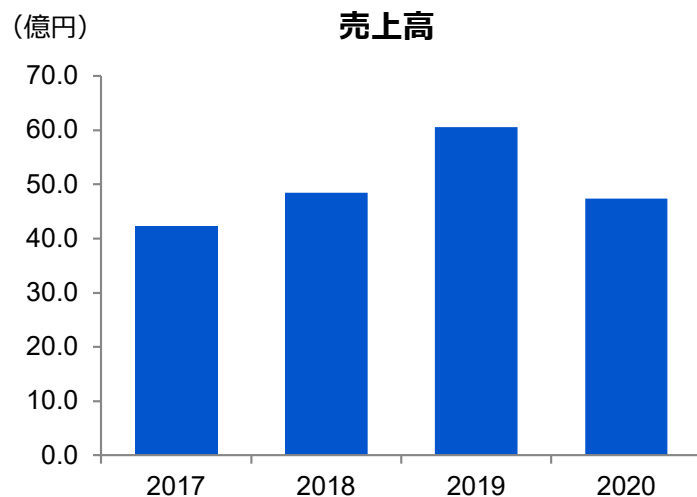
■ 宇宙防衛事業

火星探査機搭載機器一括契約もあり過去最大の受注金額

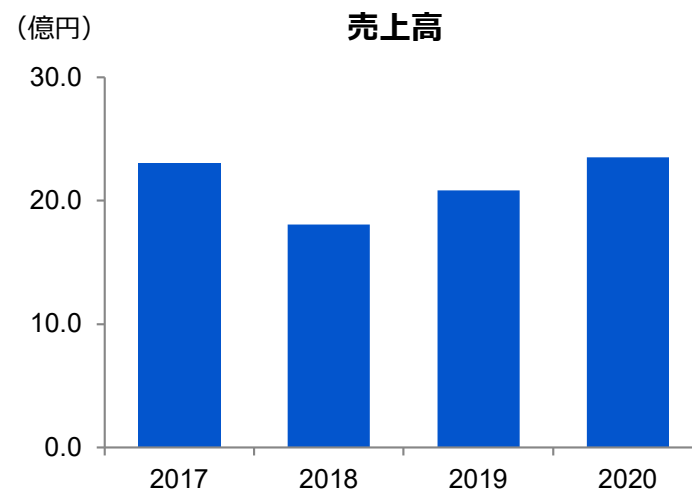
コロナ禍影響で部材入手遅延が発生、操業低迷し売上は減少

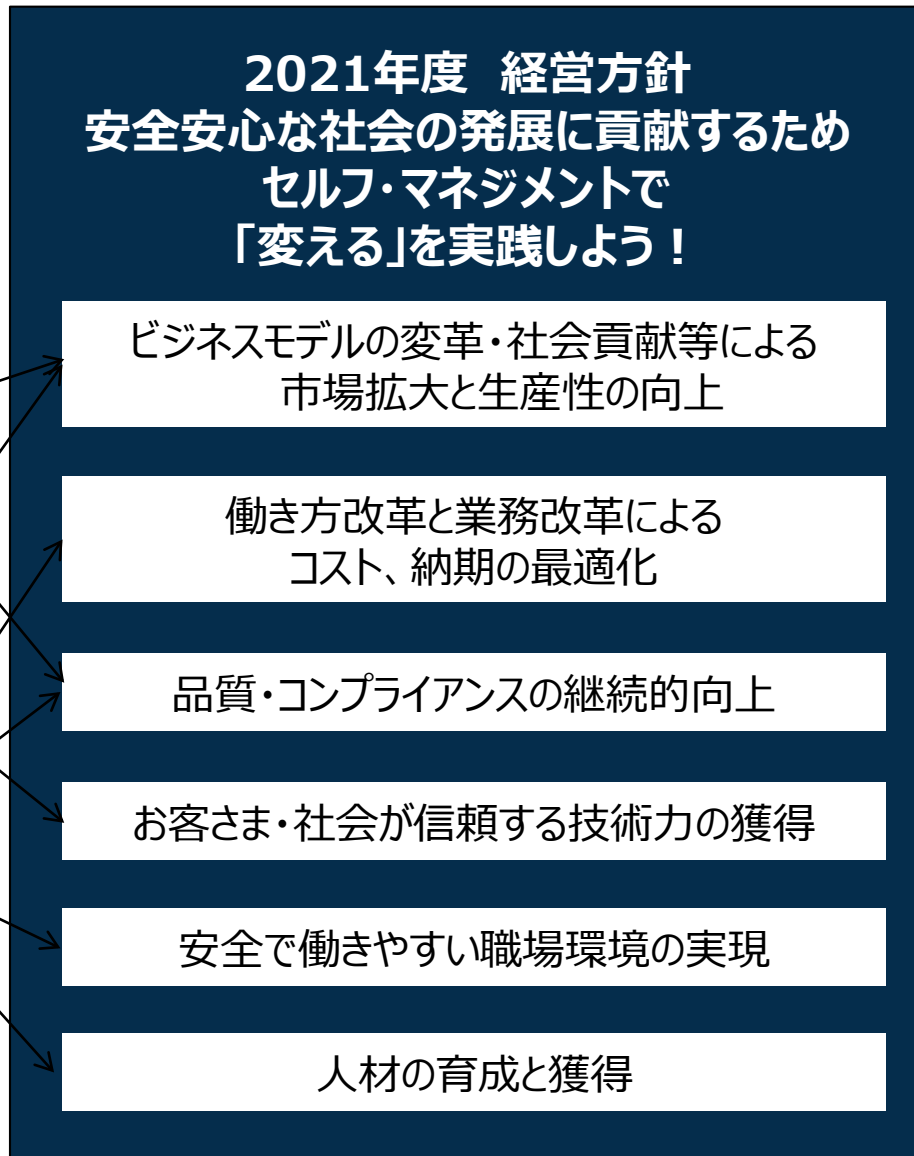
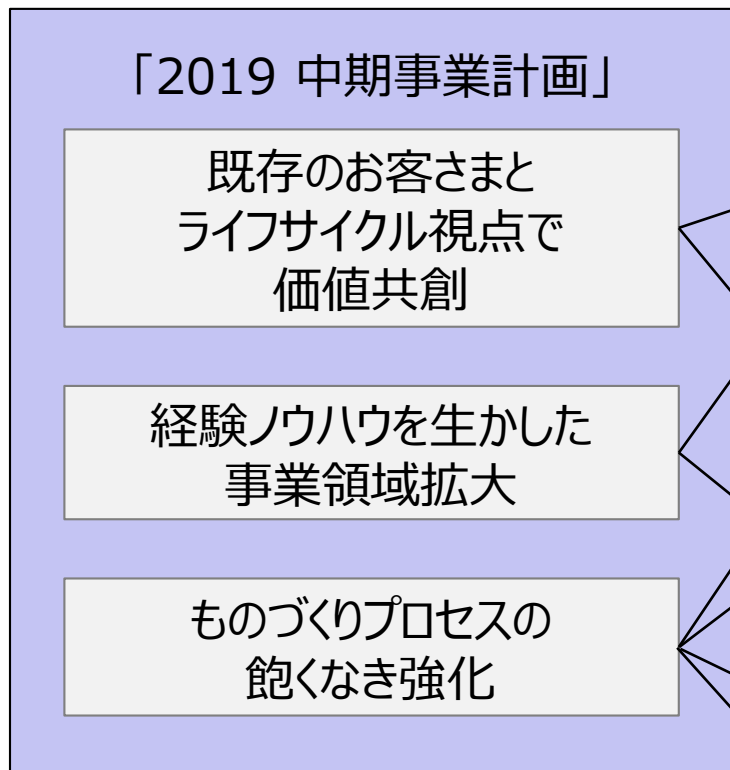
防衛分野は新規の試験装置の受注もあり右肩上がりに好転

気象防災事業



宇宙防衛事業





<ビジョン> 防災・環境に課題を抱えるお客さまへの価値情報提供企業

基盤強化

<既存事業強化戦略> ビジネスモデルの変革等による市場拡大

市場：気象庁、防衛省、鉄道向けの気象・地震観測

戦略：ライフサイクル視点のベネフィット提供による事業基盤の拡大

顧客起点型への変革

<事業領域拡大戦略 1> お客さまに徹底的に入り込んだソリューション提案

市場：防災関連（官公庁・自治体・法人など）、インフラ事業者（含む交通）

戦略：情報提供サービスからお客さまのオペレーションまでの課題解決力を強化し、事業領域の拡大を図る

<事業領域拡大戦略 2> コロナ禍における防災技術の国際展開

市場：気象災害・地震災害の多い新興国（重点国に集中）

戦略：JICAや政府機関・日本商社連携 現地代理店や保守体制構築

<ビジョン> 宇宙を含む極限環境での計測・通信機器のトップメーカー

基盤強化

<既存事業強化戦略> 宇宙研究開発市場でのミッション機器の安定供給

市場：国内外のベンチャー企業を含む宇宙開発機関・大学

戦略：優位性があるパートナー連携で既設技術の活用提案とリスク低減

事業変革

<事業領域拡大戦略 1> 成長する宇宙利用市場で機器売りからシステム販売

市場：海外、民間、ベンチャーの宇宙開発企業

戦略：衛星バス機器、計測機器、カメラ、送受信機を組合せた複合機能提案

<事業領域拡大戦略 2> 宇宙で培った耐環境・放射光技術の地上転用

市場：国内外の放射光研究施設、IHIシナジーを活かした国内外企業

戦略：技術的な優位性を確保したシステム販売

事業活動を通じたSDGs (注) 達成への貢献

事業活動を通じて社会の重要課題を解決する

気象防災事業



宇宙防衛事業



安全で働きやすい職場環境の実現 人材マネジメント



(注) SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットで採択された国際社会共通の目標です。

IHI GROUP
Realize your dreams